

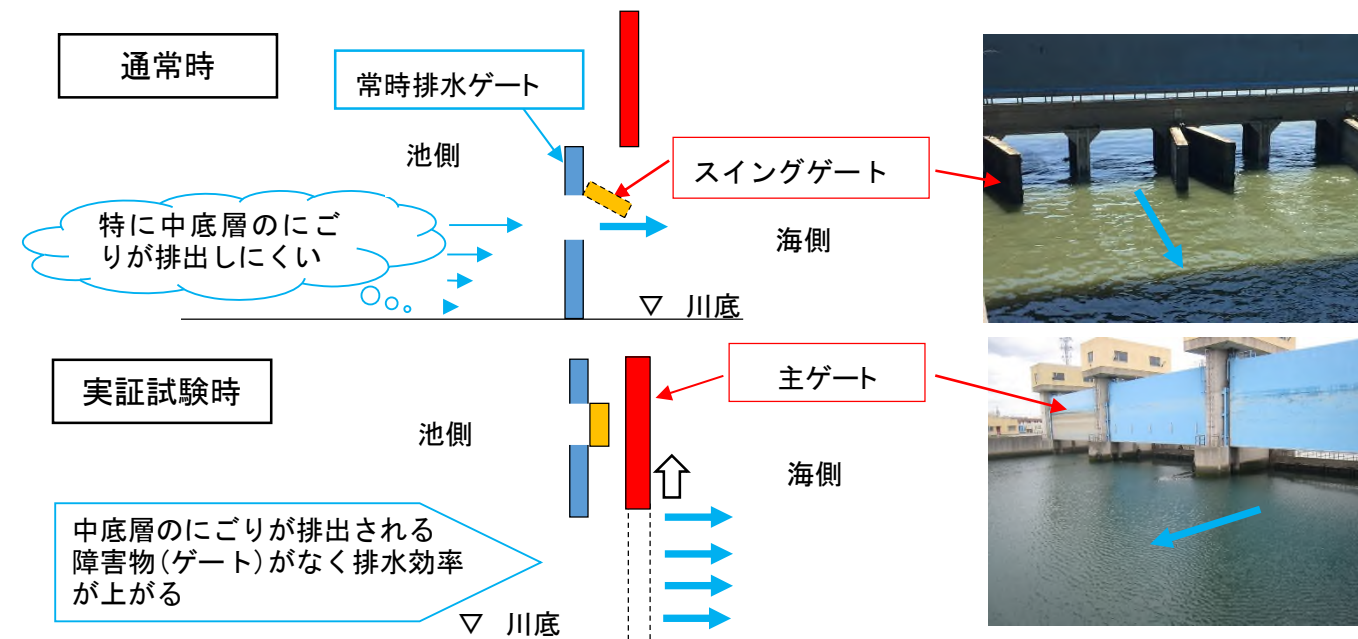
2020年度 高浜川水門の実証試験結果

資料-4

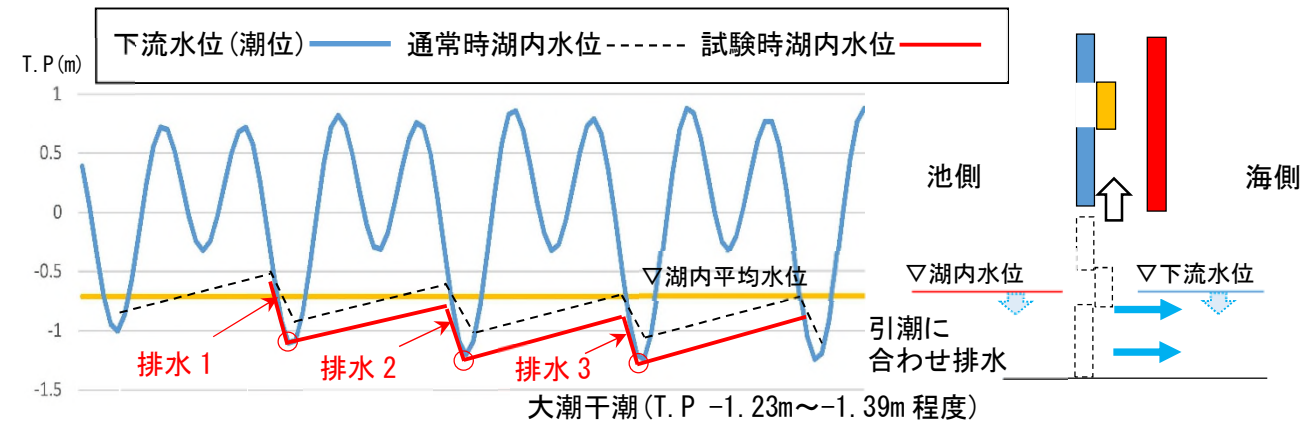
1) 背景

- 油ヶ淵水環境改善緊急行動計画を策定し、にごり対策を関係機関が取り組んでいるが、油ヶ淵の透視度(にごり)の改善傾向が見られない。
- 油ヶ淵の「にごり」改善対策として、湖内の「にごり」と上流からの「きれいな水」との水交換を促進するため、常時排水では構造上排出しにくい、湖内中底層の「にごり」の排水を行うため、高浜川水門の開門操作による「にごり」改善の実証試験を2019年度から実施している。
- 2019年度の実証試験では、水門操作により油ヶ淵湖内底層の流速が、通常の2~3倍程度となり、湖内中底層に漂う「にごり」の排水に効果があることを確認した。

<実証試験イメージ>



<水門操作イメージ>



3) 2020年4月から2021年1月の実証試験結果の概要

- 2020年4月から2021年1月にかけて、延べ50回の開門を行い、約2,000万m³(池容量約200万m³)の水交換を実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2020年度	75	81	295	511	347	321	71	132	70	144	実施予定	実施予定	2,047

水交換量(万m³)

4) 実証試験による油ヶ淵湖内の透視度

- 開門によって上昇するが、降雨の影響を受け一時的に悪化する。(左下図)
- 開門調査中に降雨が少なかった、1月は52cmで平年を大きく上回った。(右下図)
- 開門調査中に降雨の影響を著しく受けた7月は10cmまで一時的に悪化した、その後、6日間で37cmまで回復した。(右下図)
- 顕著な改善がみられなかった12月は、11月から降雨量が過去に比べ極端に少なかったことが、影響していると考えられる。(右下図)

2) 2020年度の実証試験

- 実証試験は以下の条件により実施している。
 - 年間を通して実施する。
 - 貯水を行わずに、常時排水ゲートを引き上げる排水操作を行う。
 - 月2回の大潮干潮時を中心に引き潮に合わせ概ね3日連続で実施する。
 - 貯水を行わないため、降雨による中止は行わない。
 ただし、台風等により高潮の発生が予測される場合は中止とする。

